

# 拓殖大学文京キャンパス再開発について



平成24年10月12日  
学校法人拓殖大学

## ■拓殖大学ルネサンス事業

拓殖大学の発祥の地である東京都文京区小日向の文京キャンパスは、昭和7年に建設された歴史的建造物であるA館をはじめ、その後昭和30年～40年代に各施設が順次建設された。しかしながら、施設の狭隘、老朽化が進み長年にわたり再整備計画の具体化へ向けた検討が行われてきた。平成12年の大学創立100周年を期に新たな大学のビジョンとなる『拓殖大学ルネサンス計画』が確立され、その重要な一環として文京キャンパス整備事業の段階的推進が決定された。

「100年の伝統と現代の融合」をテーマに、既存建物と新しい建築との心地よい融合を目指すとともに、長年地域のランドマークとして親しまれてきた歴史を誇る大学施設に相応しい意匠性を備えたキャンパス造りを目指している。

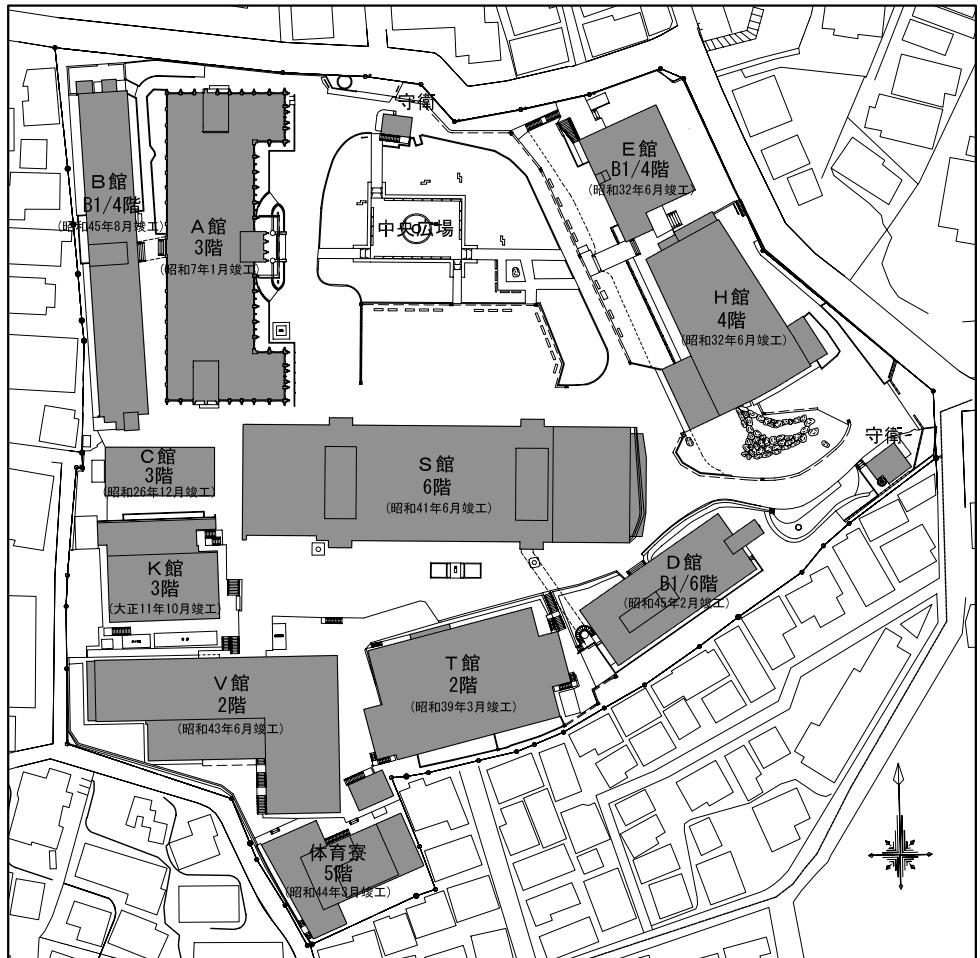
文京キャンパスの敷地は、深い歴史性と利便性の高い都心部にありながら、緑豊かで、起伏に富む地形となっている。周辺は閑静な住宅街であることから、近隣地域の良好な環境づくりに寄与するため、視線の遮蔽と騒音の緩和を考慮した緑豊かなキャンパス造りを目指している。また、地域の風景の記憶を継承するため、既存建物であるA館とともにヒマラヤ杉を保存する。

21世紀を担う人材の育成に相応しい新たな教育環境を創出し、周辺環境との調和を図り、地域に貢献できる施設を目指し、文京キャンパス整備事業は着実に進行している。新たな歴史を地域と共に歩む、緑豊かな地域に開かれたキャンパスが実現することとなる。

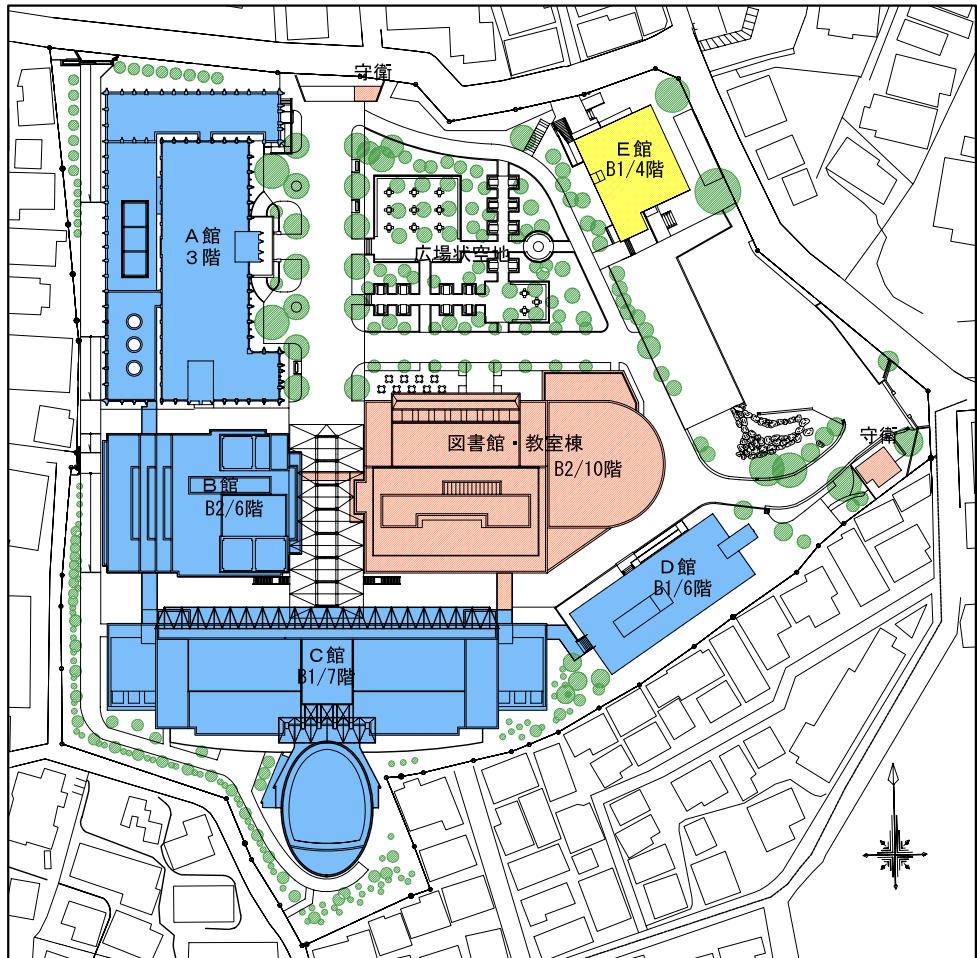


# 文京キャンパス整備事業

整備事業着手前配置図



整備事業完了時配置図



計画延べ床面積 約45,500m<sup>2</sup>

|  |            |
|--|------------|
|  | 第3ステージ新設建物 |
|  | 整備済建物      |
|  | 存置建物       |

## ■拓殖大学ルネサンス事業

拓殖大学の発祥の地である東京都文京区小日向の文京キャンパスは、昭和7年に建設された歴史的建造物であるA館をはじめ、その後昭和30～40年代に各施設が順次建設された。しかしながら、施設の狭隘、老朽化が進み長年にわたり再整備計画の具体化へ向けた検討が行われてきた。平成12年の大学創立100周年を期に新たな大学のビジョンとなる『拓殖大学ルネサンス計画』が確立され、その重要な一環として文京キャンパス整備事業の段階的推進が決定された。

「100年の伝統と現代の融合」をテーマに、既存建物と新しい建築との心地よい融合を目指すとともに、長年地域のランドマークとして親しまれてきた歴史を誇る大学施設に相応しい意匠性を備えたキャンパス造りを目指している。

文京キャンパスの敷地は、深い歴史性と利便性の高い都心部にありながら、緑豊かで、起伏に富む地形となっている。周辺は閑静な住宅地であることから、近隣地域の良好な環境づくりに寄与するため、視線の遮蔽と騒音の緩和を考慮した緑豊かなキャンパス作りを目指している。また、地域の風景の記憶を継承するため、既存建物であるA館とともにヒマラヤ杉を保存する。

21世紀を担う人材の育成に相応しい新たな教育環境を創出し、周辺環境との調和を図り、地域に貢献できる施設を目指し、文京キャンパス整備事業は着実に進行している。新たな歴史を地域と共に歩む、緑豊かな、地域に開かれたキャンパスが実現することとなる。



北側より望む



南側より望む

## ■建物概要

|       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 建築主   | 学校法人 拓殖大学                             |
| 住居表示  | 東京都文京区小日向3丁目4番14号<br>拓殖大学文京キャンパス内     |
| 主要用途  | 大学（学校）                                |
| 地域・地区 | 第一種中高層住居専用地域、第一種文教地区<br>茗荷谷駅前地区地区計画地域 |
| 敷地面積  | 19,908.99 m <sup>2</sup>              |

### 【A館】

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 建築面積 | 1,816.62 m <sup>2</sup> |
| 延床面積 | 4,275.95 m <sup>2</sup> |
| 規模   | 地下1階 地上3階 塔屋1階          |
| 構造   | 鉄筋コンクリート造               |
| 最高高さ | 15.115m                 |
| 施設内容 | 法人本部、事務室                |



### 【B館】

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 建築面積 | 1,036.04 m <sup>2</sup> |
| 延床面積 | 6,775.82 m <sup>2</sup> |
| 規模   | 地下2階 地上6階 塔屋1階          |
| 構造   | 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造       |
| 最高高さ | 31.703m                 |
| 施設内容 | 研究室、学生ホール、学生食堂          |

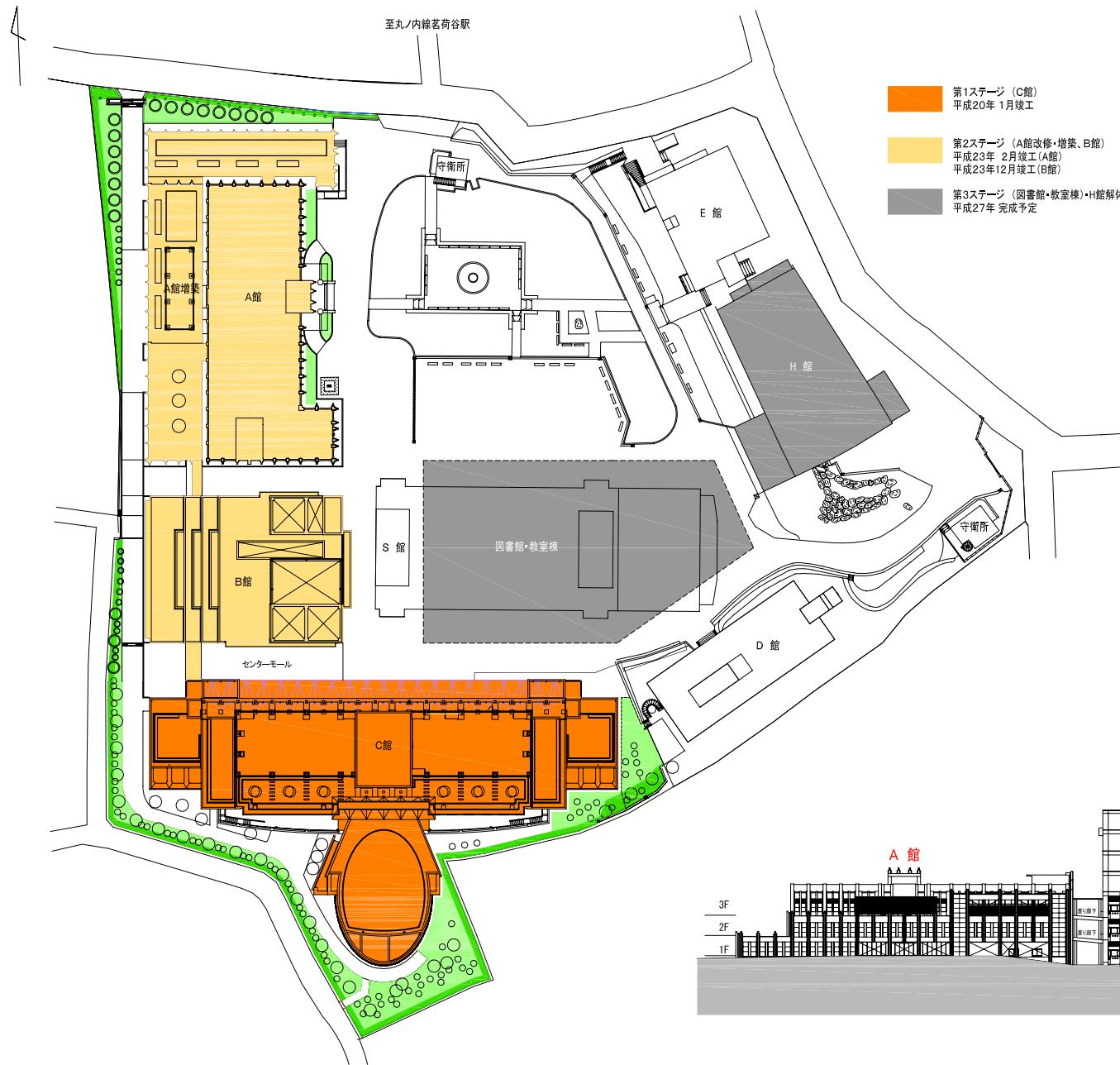


### 【C館】

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 建築面積 | 2,266.17 m <sup>2</sup>  |
| 延床面積 | 13,559.62 m <sup>2</sup> |
| 規模   | 地下1階 地上7階                |
| 構造   | 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造          |
| 最高高さ | 30.200m                  |
| 施設内容 | 教室、ゼミ室、事務室               |



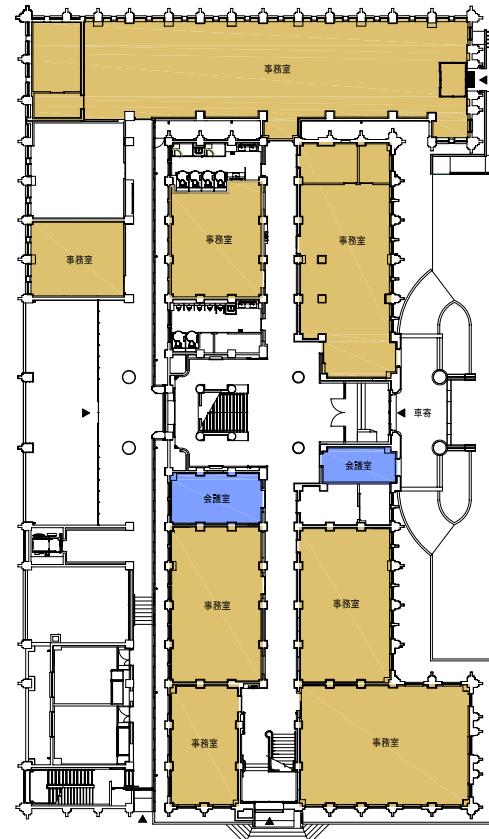
第2ステージ完了時文京キャンパス配置図



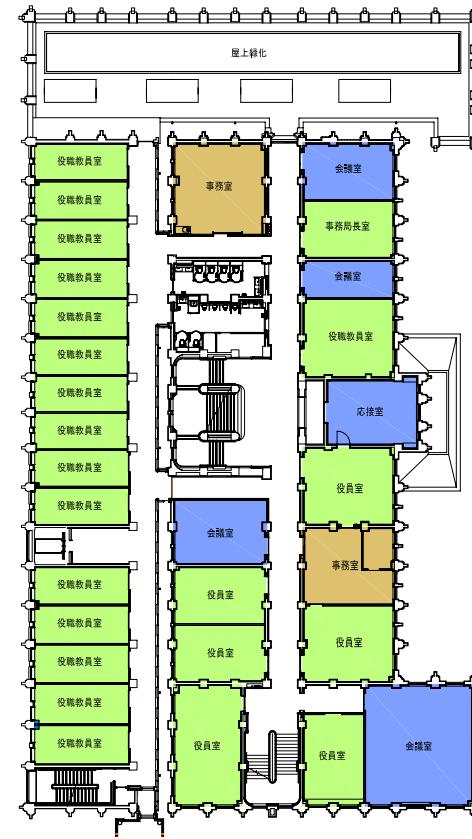
A館平面図

A館は昭和7年に建設され、長年地域のランドマークとして親しまれてきた歴史的建造物であり、地域の風景の記憶を継承するため、同じく歴史を刻んできたヒマラヤ杉とともに保存とした。

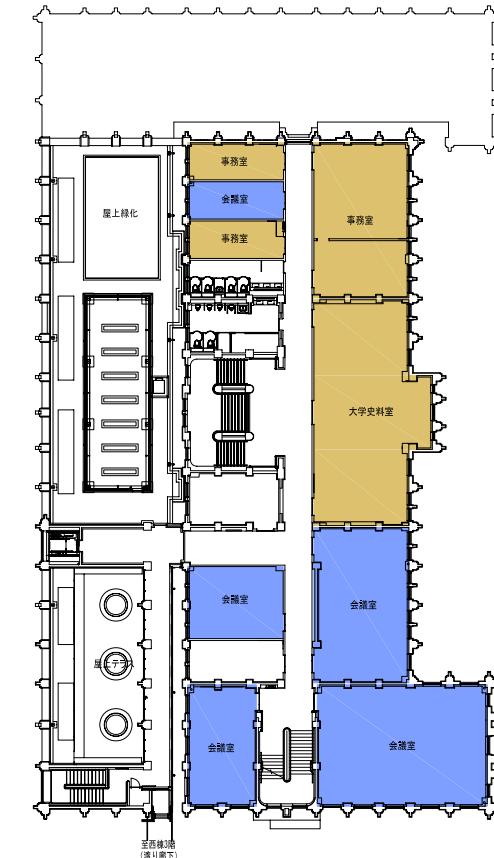
施設については、耐震補強及び老朽化した設備、内外装の改修を行い、新たに増築することにより、法人本部中枢としての機能の充実、拡張を行った。



1 随平面图



2 階平而圓



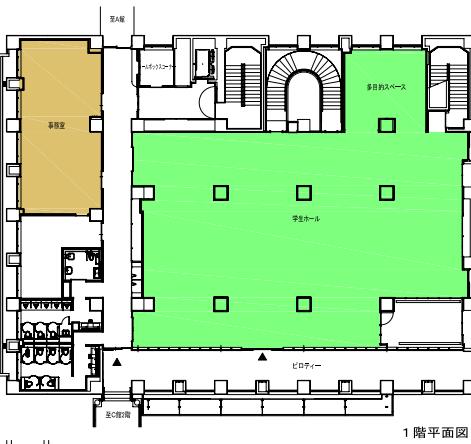
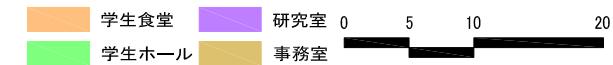
3 階平面圖

## B館平面図

B館は敷地西側に対し平面的及び立面上にセットバックされることにより建物のボリュームによる圧迫感を低減させるとともに、先に建設されたC館と同様に外観は柱型を主としたデザインによりスケール感の分節を行い、色彩は街並みに馴染み、溶け込んでいるA館の外観を基調としている。

施設機能として地下1階に学生食堂、1階に学生控室を配置し、C館との間に面したセンターモールを介してコミュニケーションや憩いの場としての一体的な空間づくりを行っている。2階～6階は100室を超える研究室により構成され、各階中央配置された研究室は吹抜け空間に面しており、風・光を感じ、研究環境、居住環境に配慮した計画としている。

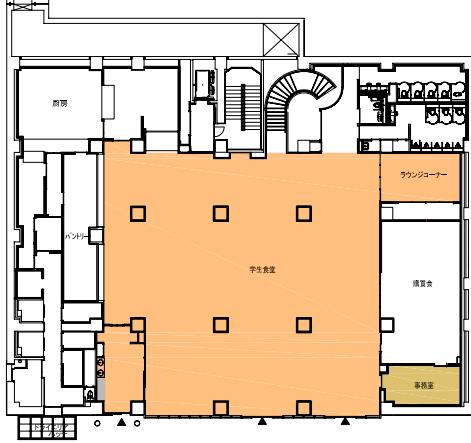
省エネルギー対策として、ライトシェルフによる日射抑制、人感センサーによる照明点灯、最適化システムの導入による効率のよい空調制御を図るとともに、屋上には太陽光発電パネルの設置を計画している。



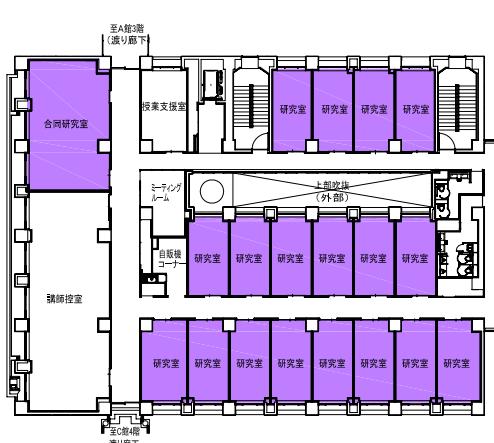
1階平面図



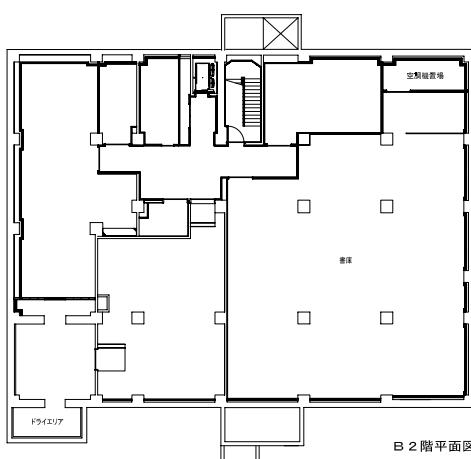
4階平面図



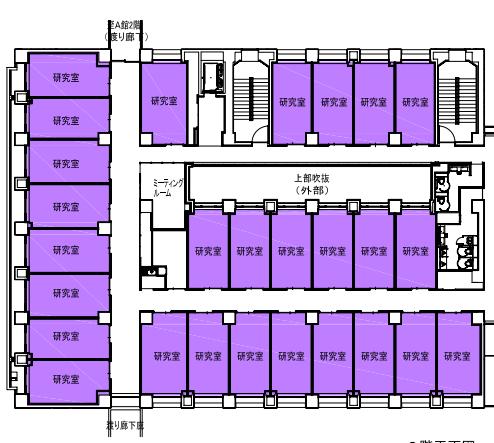
B 1階平面図



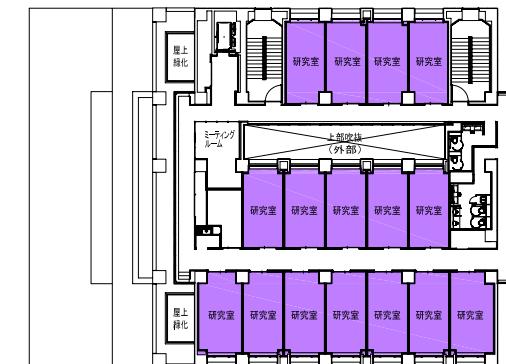
3階平面図



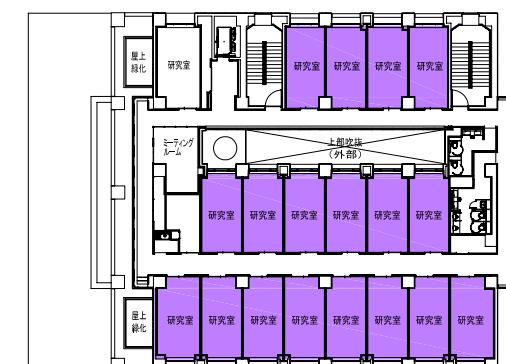
B 2階平面図



2階平面図



6階平面図



5階平面図

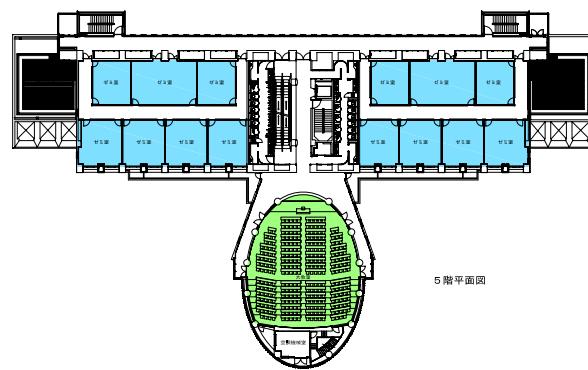
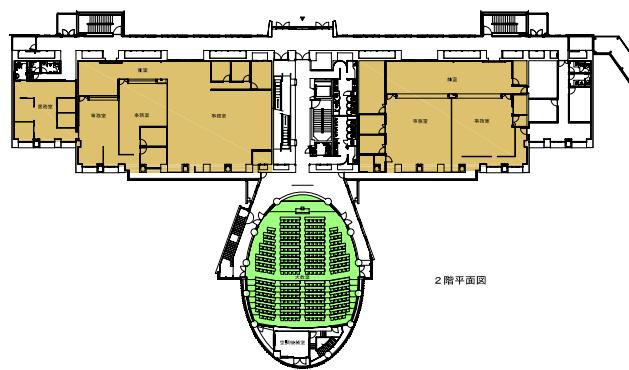
## C館平面図

C館は段階的な文京キャンパス整備事業の先駆けとなる第1ステージとして建設された。平面的及び立面的に建物のボリュームを雁行させることにより、街並み風景に配慮するとともに、今までと同様、ランドマークとして地域に根ざした大学施設にふさわしい意匠性の確保を目指した。外観は柱型を中心としたデザインによりスケール感の分節を行い、色彩は街並みに馴染み、溶け込んでいるA館の外観を基調としている。

主に中小規模の教室やゼミ室、事務機能で構成され、最上階には眺望を生かしたラウンジがあり、憩いのスペースであるとともに、都心の風景を一望に楽しむことができる。卵形をした南部分は、各階300人収容の階段式大教室となっている。より住宅地に近接しているため、住民と学生との視線の交差に配慮し、有効折板の目隠しルーバーを外観の特徴として設けている。

省エネルギー対策として、中間期における自然通風の確保、ライトシェルフによる日射抑制、調光センサーによる照明システム、そして、屋上は緑化とウッドデッキにより、ヒートアイランドの抑制と照り返し防止に努めている。

教室は静寂で落ち着きのある空間として、また、共用部分となる廊下などは床にフローリング用い、開口部を多く取るなど明るく、温かみのある空間づくりを行い、生活環境、教育環境の充実を図っている。



0 5 10 20

